

渋谷区小中一貫教育校
(千駄谷小学校・原宿外苑中学校)
建て替え準備委員会

第4回

2025年5月21日



開催日	議題
2025年 5月21日	1 開会 2 議題 (1) 建て替え準備委員会スケジュールについて ・第1回～第3回のおさらい (2) 第3回建て替え準備委員会の振り返り ・第3回建て替え準備員会で出た課題について (3) 今回の議題について ・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング (4) ハード面以外の検討について ・検討スケジュール（予定）他 (5) 次回の主な議題について ・アンケートの実施について ・基本計画（素案）の説明

建て替え準備委員会スケジュールについて

2-1

	日程/時期（仮）	議 題（仮）
第1回	10/31（木） 14：30～16：00	・ご挨拶、委員、事務局の紹介 ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について ・渋谷区小中一貫教育校（千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替えの概要 ・既存施設と法的規制について ・次回の主な議題について
—	①11/19（火） ②11/28（木） 16：00～17：00	・渋谷本町学園視察
第2回	12/10（火） 15:00～16:30	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について
第3回	3/3（月） 15:00～16:30	・学校環境の整備方針 ・ラーニング・コモンズの使い方 ・地域開放の考え方
第4回	5/21（水） 15:00～16:30	・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング
第5回	6月	【基本計画（素案）の説明】
第6回	8月	【基本計画（案）の説明】

◆出展予定

渋谷防災キャラバンin千駄ヶ谷地区
・日時：2025年5月31日（土）13:00～16:00
・会場：地域交流センター代々木の杜

渋谷防災キャラバン in 神宮前地区
・日時：2025年10月18日（土）9:00～12:00
・会場：神宮前小学校

	日程/時期	議 題
第 1 回	10/31（木） 14：30～16：00	・ご挨拶、委員、事務局の紹介 ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について ・渋谷区小中一貫教育校（千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替えの概要 ・既存施設と法的規制について ・次回の主な議題について

新しい学校づくり 整備方針の概要



渋谷区本町学園の紹介



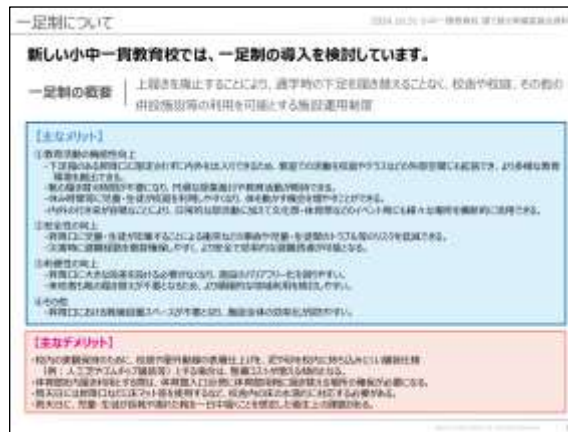
法規制について



小中一貫教育校 整備方針の概要



一足制の導入検討



敷地周辺の分析



	日程/時期	議 題
第2回	12/10（火） 15:00～16:30	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について

渋谷区本町学園視察について①



秋田県立総合教育センター



秋田県立総合教育センター

<基本情報>

平成24年4月開校 創立13周年
 市立主校区 897名（小・中学校71名、中学校226名）
 市立副 34学校（小学校26、中学校1）秋田西宮
 秋田南宮 125名

<小中一貫教育の取り組み>

- ・5・6学年の90分授業
- ・5・6学年の一部科目担任制（国語、理科、家庭科、音楽）
- ・中学校教員による5・6学年授業への一部交差
 （英語、音楽、体育、外国語）
- ・即進級の小学校5年生から参加
 ・朝礼（学校朝礼、2つの朝礼、校種別）
- ・初・1年生主校受入会
- ・1年生と5年生が交遊
- ・運動会（午前 秋田南、午後 中・高両校）
- ・新年度16年生卒業式及び入式行事制

<課題>

- ・時給の不足
- ・理解度の調整
- ・校種別の校風・校風地味化抑制

渋谷区本町学園視察について②

項目	概要	留意
①	おどろきの校庭で毎朝運動しているが、	朝来は朝活動のない朝は20分運動している。
②	渋谷本町学校がPTAとの懇談会もいろいろと開いている。校長自身とが参加はしている。	6年生については、小学校の最高学年であるという意識が薄れて、まづい運動会などを行っている。 わが校、子どもは最高学年であるという自覚を持つことが必要である。 教務の工夫次第で、解決できる問題はないと思っている。
③	中学生になるタイミングで環境の外に出る子どもは多いがいない。また、卒業式の実施はあるが、	1校が卒業と中学校へ入学する。 6年生と卒業式、1年生（中学1年）に入学式を実施している。
④	制服は変わりのが、	変わる。冬、無難に変わるのである。子どもが気持ちに合わせて自分で決めようとする。
⑤	人工芝は整備しやすいためではないが、	最新の人工芝は整備されている。 使用は運動会などでも、人工芝は使用はしない（人工芝も使用はしている）。
⑥	教壇をオープンにする（教壇と廊下の間の壁を撤去して）ことで、教員向きでない学習とが学級環境になりやすいが、	子どもたちはオープン環境になれている。 廊下には子ども供は大人が話し出す教壇の方でゲームをする。オープンにすることで、わが校の壁を壊す取組がなくなり、教員の子供の力も認められるようになった。

前委員会の振り返り ハザードマップ^o



前委員会の振り返り 一足制

一定制について	
区の方針	①設計して、昇降口と下駄箱は設置しない。 ②運用方法は各学校に合わせて、新職員・児童生徒を交えて検討したい。
生きたポイント	①下駄箱と乗降口間に、壁を設けて昇降口を閉鎖し人との往来を、登降口の近所を低層部で下駄箱の外部空間に広げること、この空間で乗降口を確保すること。 ②乗降口の構造が標準的で、窓がなく、下駄箱と乗降口が敷居が連続できる。 ③乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ④内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。
教育関係の機能向上	①乗降口の構造、土間の設計することによって乗降口が事故で閉鎖、近所からの侵入や侵入の侵入を確保し、近所から乗降口を確保し通行できる。 ②乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ③内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。
安全性の向上	①乗降口の構造、土間の設計することによって乗降口が事故で閉鎖、近所からの侵入や侵入の侵入を確保し、近所から乗降口を確保し通行できる。 ②乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ③内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。
教育性の向上	①乗降口の構造、土間の設計することによって乗降口が事故で閉鎖、近所からの侵入や侵入の侵入を確保し、近所から乗降口を確保し通行できる。 ②乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ③内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。
その他	①乗降口の構造、土間の設計することによって乗降口が事故で閉鎖、近所からの侵入や侵入の侵入を確保し、近所から乗降口を確保し通行できる。 ②乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ③内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。
生きたポイント	①乗降口の構造、土間の設計することによって乗降口が事故で閉鎖、近所からの侵入や侵入の侵入を確保し、近所から乗降口を確保し通行できる。 ②乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ③内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。
対話部（一側）	①乗降口の構造、土間の設計することによって乗降口が事故で閉鎖、近所からの侵入や侵入の侵入を確保し、近所から乗降口を確保し通行できる。 ②乗降口の開口部、土間・歩道が段差を有し、かつ、歩行者と乗降口を区別することができる。 ③内外の歩道の幅員が広く、歩行者の通行が確保できると、乗降口の開口の1人1人待てば乗降口を確保し通行できる。

必要諸室について①

部門	主な講義	収容の箇所(m)
普通教室等	普通教室（小・中） $30 \times 60 = 1,800$ 、中学教室 $30 \times 30 = 900$ （予定）、少人数教育室（予定）、特別活動教室など	約4,000
ラーニングコモンズ	図書スペース、オープンスペースなど	約1,000
特別教室等	理科計測センター、図工工作室、美術制作室、技術実習室、音楽文化ホール、芸術材料保管室・演奏練習室（小・中）、音楽教室、フューチャーホールなど	約1,300
体育館等	体育倉庫、武道場、剣道場、柔道場、体操場等、多目的室、水泳競技場、テニスコート、軟式野球グラウンド、サッカーフィールド、学校管理室、保健指導室など	約1,670
給食調理棟等	調理室、準備室など	約600
体育施設等	体育倉庫×2、武道場、剣道場、室内プール、剣道道場等、備置倉庫など	約1,720
放課後クラブ	放課後クラブ室、放課後クラブ運営管理室など	約200
共用部	廊下・階段・機械室など	約1,000
合計面積(m²)		約16,860

<参考>各校の延床面積
千駄谷小学校：5,702㎡、藤原外苑中学校：836,279㎡、市立千駄谷南：15,794㎡

新築諸物は千駄谷小学校と藤原外苑中学校の合計（11,481㎡）に對して約1.46倍の規模増大となります。

必要諸室について②

[illegible]

	日程/時期	議 題
第3回	3/3 (月) 15:00~16:30	・学校環境の整備方針 ・ラーニング・コモンズの使い方 ・地域開放の考え方

学校環境の整備方針

学校環境の整備方針

2025.05.21 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

学校環境の整備方針

1. 地域特性を活かした学習環境の実現

2. 活用が広がる体育館エリアや地域開放エリアの設置

3. 小中一貫教育を体感できるラーニング・コモンズの設置



ラーニング・コモンズの使い方②

ラーニング・コモンズの使い方

2025.05.21 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

ラーニング・コモンズを設置しました。



地域開放利用における安全対策①

地域開放利用における安全対策の考え方

2025.05.21 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

地域開放利用における安全対策の考え方

セキュリティの基本方針



ラーニング・コモンズの使い方①

ラーニング・コモンズの使い方

2025.05.21 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学べる共有空間です。

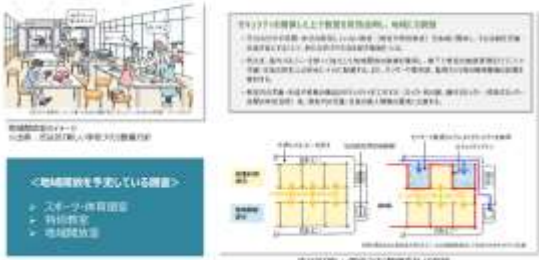


地域開放の考え方

地域開放の考え方

2025.05.21 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

地域開放の考え方



地域開放利用における安全対策②

地域開放利用における安全対策の考え方

2025.05.21 小中一貫教育校 建て替え準備委員会資料

地域開放利用における安全対策の考え方

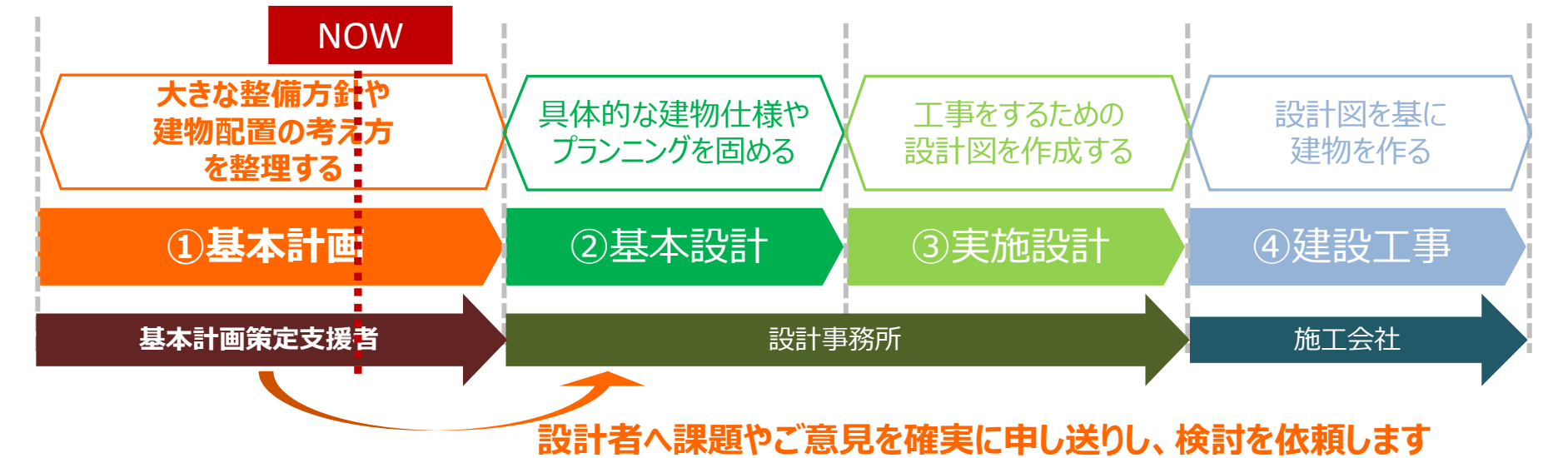
設計段階で、それぞれのセキュリティレベルに合ったセキュリティ仕様を検討していきます



第3回建て替え準備委員会の振り返り

2-2

建て替え準備委員会にて出た“計画に関わる各ご質問やご意見”は、事務局側で整理し、各フェーズで適切に対応していきます。



前回の建て替え準備委員会で出た“計画に関わるご質問”等

項目	具体的な検討フェーズ
地域開放を行う教室で、理科室の薬品など危険なものを扱っている部屋も地域開放するのか。開放しないということも考えた方が良いのではないかな。	②以降で検討
子ども達が階段を使って楽器を運んでいて危ないため、階段を使わずに楽器を運べるように、EVの利用や音楽室の配置場所を配慮してもらいたい。	②③で検討
千駄谷・原外でのラーニング・コモンズの使い方はどのような考えか。このような教育をしたいから、このようなものがいるという考え方もある。	②③で検討

今回の議題について

2-3

- ・建物配置について
- ・学校施設の機能ゾーニング

部門	主な諸室	概ねの面積(m ²)
普通教室等	普通教室（小学校 3 クラス× 6 年 = 1 8 室、中学校 3 クラス× 3 年 = 9 室）、少人数教室(9 室)、特別支援教室など	約4,000
ラーニング・コモンズ	図書スペース、オープンスペースなど	約1,100
特別教室等	理科室(小・中)、図工室(小)、美術室(中)、技術室(中)、音楽室(小・中)、家庭科被服室・調理室(小・中)、各準備室、フューチャールームなど	約1,500
管理諸室等	校長室、応接室、職員室、事務室、職員会議室、生徒会室、地域開放室、PTA室、放送室、保健室、サポートルーム、学校管理室、校歴保管庫など	約1,700
給食関係諸室	調理室、事務室など	約700
体育施設等	体育館× 2、武道場、用具倉庫、屋内プール、開放管理室、備蓄倉庫など	約3,700
放課後クラブ	放課後クラブ室、放課後クラブ事務室など	約300
共用部	廊下・階段・機械室など	約3,900
合計面積(m ²)		約16,900

<参考>各校の延床面積※ 千駄谷小学校：5,202㎡、原宿外苑中学校：約6,279㎡、渋谷本町学園：15,794㎡

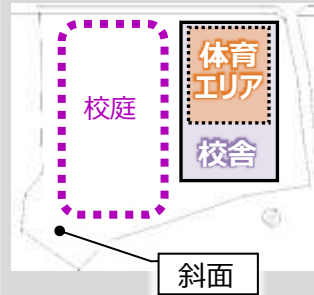
※出典：「令和 5 年版 渋谷の教育」建物面積より

新築建物の規模は、現状の原宿外苑中学校（6,279㎡）に対して、約2.69倍となります。

一方で、現状の千駄谷小学校と原宿外苑中学校の合計（11,481㎡）に対しては、約1.47倍となります。

校舎(体育エリア)と校庭の配置について、比較検討します。
延床面積16,860㎡→**地上6階建て**で想定

※体育エリア…体育館、プール、武道場を示す

	既存(現状)	A案:校舎北側	B案:校舎西側	C案:校舎南側	D案:校舎東側
配置イメージ(例) 					
日影規制	—	北東側の高さを抑えれば、建設可能	日影規制による高さ制限を受けない	日影規制による高さ制限を受けない	日影規制により建設不可
校庭環境	—	校庭に日影が生じない	校舎棟により、校庭に一部日影が生じる	校舎棟により、校庭に日陰が最も生じる	校庭に日陰が生じない
校庭広さ	約4600㎡	約4400㎡ (やや不整形)	約4650㎡ (概ね整形)	約3000㎡ + 南東にサブ1000㎡	約4000㎡
近隣との関係	—	北側の大通りを挟んで集合住宅やオフィスと見合いになる	南西側の集合住宅と見合いになる	南側の集合住宅と見合いになる	東側のオフィスと見合いになる

青字：メリット、赤字：デメリット

次ページにて、A案、B案の深度化した比較検討案を説明いたします

校舎(体育エリア)と校庭の配置について、比較検討します。

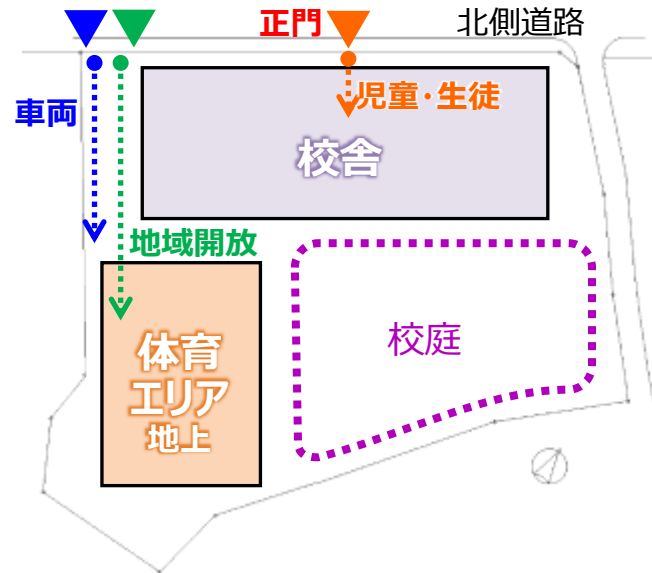
※体育エリア…体育館、プール、武道場を示す

	既存(現状)	A①案:校舎北側 体育館エリア 独立	A②案:校舎北側 体育エリア 一体	B①案:校舎西側 体育エリア 独立	B②案:校舎西側 体育エリア 一体
配置 イメージ (例)					
断面 イメージ (例)					
校庭 広さ	約4600㎡	約2800㎡	約4400㎡ (やや不整形) ※既存地下プール部分は、 斜面となり校庭利用が困難	約2800㎡	約4650㎡ (概ね整形)
トラック サイズ	150mトラック (内周計測) レーン幅1.2m×6レーン	70mトラック (内周計測) レーン幅1.2m×6レーン	110mトラック (内周計測) レーン幅1.2m×6レーン	70mトラック (内周計測) レーン幅1.2m×6レーン	150mトラック (内周計測) レーン幅1.2m×6レーン

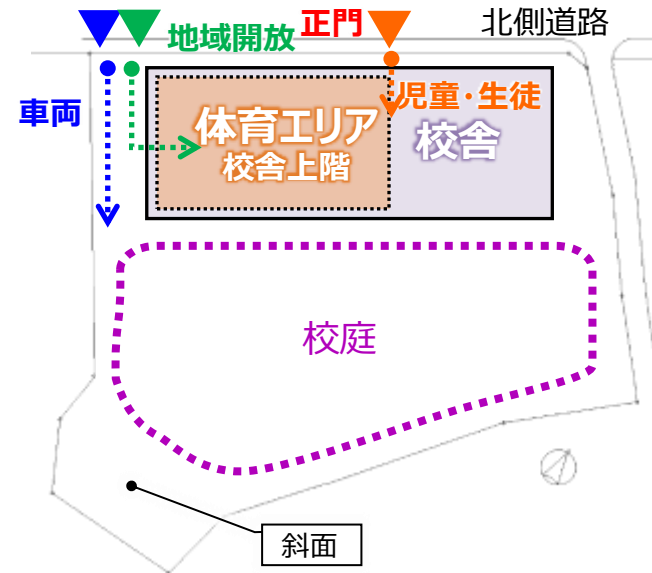
青字：メリット、赤字：デメリット



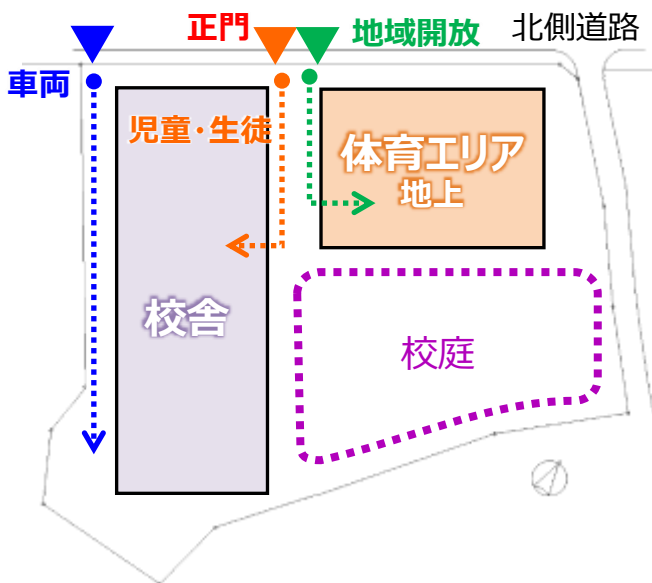
A①案:校舎北側・体育エリア独立案



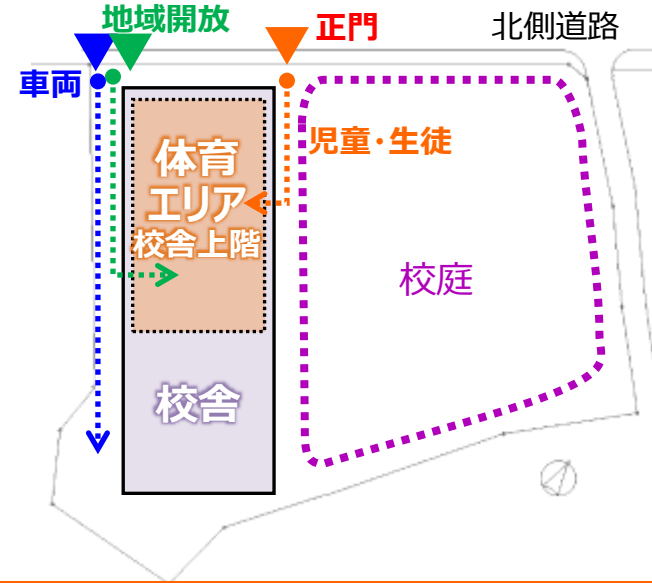
A②案:校舎北側・体育エリア一体案



B①案:校舎西側・体育エリア独立案



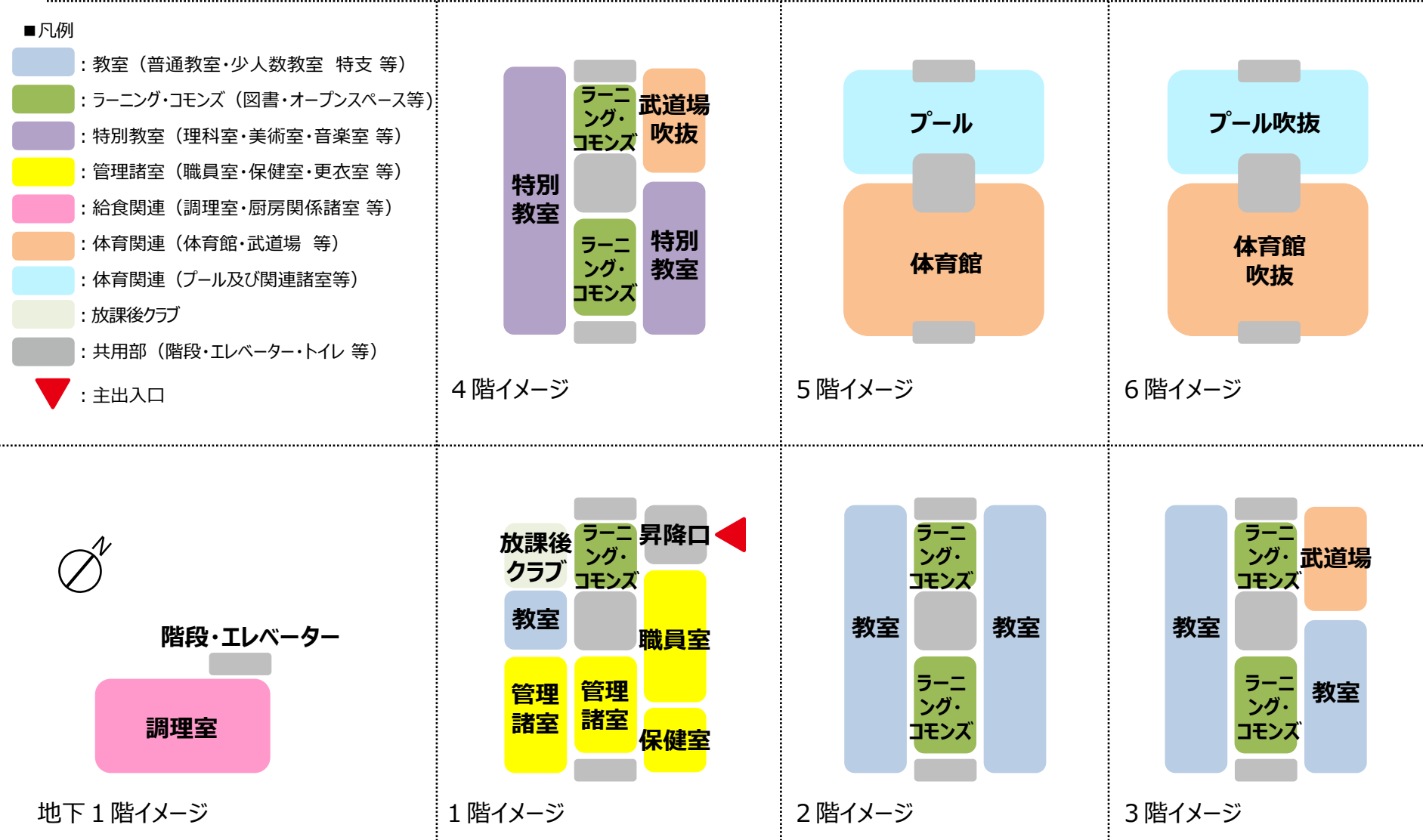
B②案:校舎西側・体育エリア一体案



※この資料は、建て替え準備委員会用の検討案であり、今後の検討や協議により変更になる可能性があります。

機能配置の考え方

新校舎の中心にはラーニング・コモンズを配置し、普通教室や特別教室などをラーニング・コモンズに面するように配置することで、多様な学習スタイルにも対応できる場とすることを目指します。また、上階に大空間となる体育関連施設を計画し、地域開放動線と生徒動線を明確に分離することを目指します。



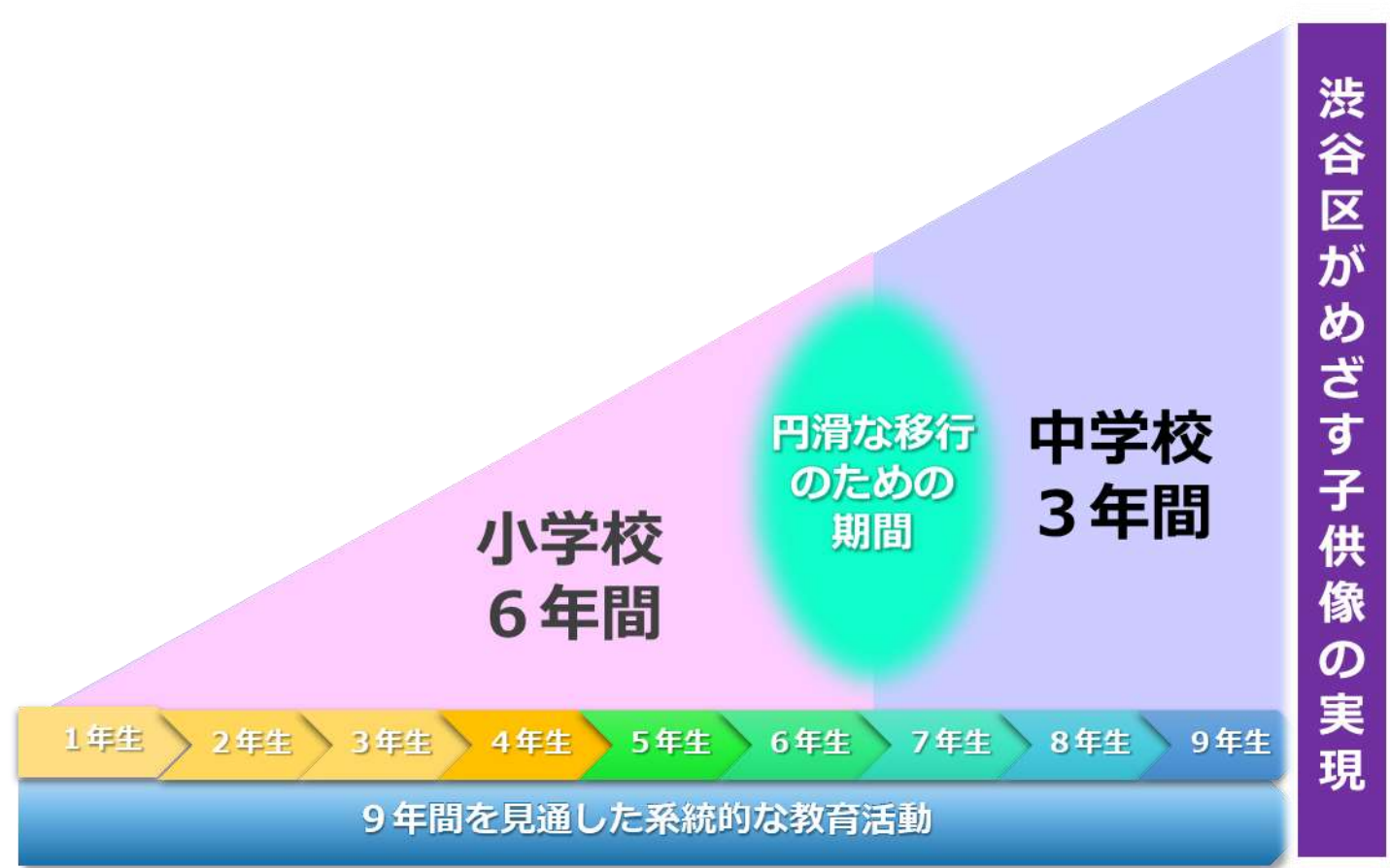
ハード面以外の検討について

2-4

- ・検討スケジュール（予定）
- ・一貫校の制度、一貫校化について
- ・一貫校の課題や懸念と解決策・対応策について
- ・学校名、学校の特色について
- ・小学校跡地の利用について
- ・今後の情報共有について

※公開用に編集しています。

小中一貫教育とは、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間の見通しをもって系統的な教育を目指す教育です。



※この資料は、建て替え準備委員会用の検討案であり、今後の検討や協議により変更になる可能性があります。

渋谷本町学園では、初等部（1～4年）・中等部（5～7年）・高等部（8・9年）で行っていると学校パンフレットに記載されています。

Q 渋谷本町学園と同様に4-3-2制となると、中学生（7年生）から入学する子ども（同じ中学校区内の小学校の児童）が入りづらく感じるのではないのでしょうか。

A 渋谷区の小中一貫教育校における学年段階の区切りは、「小学校6年間、中学校3年間」の枠組みを基本とします。

例えば、同じ原宿外苑中学校の学区内にある神宮前小や鳩森小、代々木山谷小（一部）など、千駄谷小以外の卒業生も7年生から入学しますが、学習の進捗は同様であるため、教育課程の問題は生じません。

なお、一貫教育校では、いわゆる「中1ギャップ」等の教育課題に対応するため、小学校段階と中学校段階との間に、円滑な移行のための取組を意図的に設けています。例えば、部活動や生徒会などに5年生から参加するなど、緩やかに中学校へ移行する取組を行っています。渋谷本町学園で実施している4-3-2制もこの取り組みを示しているものです。

Q 一貫校にすることによるメリットは何でしょうか。

- A**
- 1 学習の流れの統一：9年間の見通しをもって学習に主体的に取り組むことができ、学習の連続性が確保されます。
 - 2 多様な関わり：多様な教職員や児童・生徒と関わる機会が増え、中学校進学に対する不安感が軽減されます。
 - ・ 小学生と中学生が関わる機会の増加
 - ・ 教員数の増加
 - 3 連続性のある教育：生活指導・学習指導において9年間を見通した連続性を意識した教育が行えます。
 - 4 教職員の負担軽減：小学校と中学校に必要な事務の一体化

Q 校内に中学生がいるため、小学校高学年におけるリーダー性の育成が阻害されるのではないか

A 小学校高学年が主体的に行事の運営に携わり責任感や自立心、自覚を高めるよう工夫します。例えば、始業式と終業式、小学校1年生の入学式や中学校1年生の進級式は小中合同で行いつつ、運動会や文化祭、制服や私服の別はこれまで通りの小学校・中学校の区切りで行ったり、6年生の卒業式、9年生の卒業式は別日開催にするなどして、小学校6年生の児童の出席を確保しています。

Q 小中一貫教育校に中学校から入学する生徒の心理的負担感があるのではないか

A 中学校から入学する生徒に対しては、学区域内の小学校と交流を多く持ち、児童・生徒同士、児童同士が中学校入学前から関わりを持てるような教育活動を進めます。万が一、心のケアが必要となった場合には、スクールカウンセラー、教育センターの教育相談機能等も活用し、児童・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添った丁寧な対応に努めます。また必要に応じて、丁寧なガイダンスを行ったり、補習や家庭学習の課題をきめ細かに出したりなどのフォローを行います。

もとより、入学後の学校に円滑に適応できるようにすることは、一貫校のみならず、通常の小・中学校においても重要なことであり、児童・生徒や保護者に対するきめ細かな対応を行うことが責務であると考えます。

Q 小学校と中学校の教員の連携の難しさや、多忙化・多忙感がでるのではないか

A 中学校教員による小学校での交流授業や授業補助を行い、児童・生徒理解に関する情報交換や連携を深めたりするなどの取組を行います。小学校高学年への教科担任制を導入する場合には、複数の学級で同じ教育内容を扱うことから、教材準備が深く、かつ効率的に行えるということが考えられます。

また、小学校と中学校それぞれで任命してきた校務分掌を、小学校段階と中学校段階どちらかの教員に担わせることが考えられます。加えて、専科指導を小・中学校段階の双方にまたがった指導を行うといった工夫も考えられます。

Q

建て替え委員会はハード面を検討する場と認識していますが、学校名や校歌などはどのように検討が行われるのでしょうか。
また、学校名についてはどんな案がありますか。「鉢山」「猿楽」「原宿外苑」「千駄谷」の名称は残りますか。

A

渋谷本町学園の場合は、開校の約2年前に検討委員会が立ち上げられ、アンケート等を実施した後、学校設置者（区）が決定を行っています。
猿楽小学校・鉢山中学校、千駄谷小学校・原宿外苑中学校の小中一貫教育校についても、同様の手順を踏むことが想定され、令和12年頃から検討を開始する予定です。
渋谷本町学園と同様に、地域のご意見を聞きながら校名を検討しますが、最終決定は学校設置者（区）が行います。卒業生の思い出と歴史を尊重しつつ、未来の児童・生徒のために新たな小中一貫教育校のビジョンを構築することを目指し、慎重に検討します。

Q

学校の特色については、どのような会議体で、いつ発足し、決定していきますか。

A

中学校の特色については、区としての教育政策の方向性を踏まえつつ、区立中学校8校の状況や地域特性等を考慮し、教育委員会において学校長との協議のもと総合的に判断して設定します。
また、学校の特色は、新設校になったから検討をするというものではなく、その時々の方針に合わせて検討するものと考えています。

Q

千駄谷小学校跡地についてはどうなりますか。

A

千駄谷小学校跡地は、周辺校建て替えのための代替校舎として利用します。また、代替校舎としての利用が終了した後は、「渋谷区『新しい学校づくり』整備方針」に記載のとおり、第2グラウンドとしての活用を想定していますが、今後の地域のニーズ等を踏まえ検討します。具体的な検討は、代替校舎としての利用が終了する数年前からになるものと考えています。

渋谷区立小学校・中学校建て替えロードマップ 令和5年（2023年）3月改定

	第1期（今後10年間）										第2期（次の10年間）※									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041
	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23
原宿外苑中学校																				
千駄谷小学校										★2										
鳩森小学校																				
神宮前小学校																				

01 建物に関する説明会について

令和7年末に、**基本計画説明会**を実施いたします。

その他、実施設計時には、近隣住民に向けた「**渋谷区中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例**」に基づく**説明会**の実施もいたします。

開催日時・方法や周知範囲については未定ですが、決まり次第お知らせいたします。

02 新入生や保護者への説明会について

各校で毎年開催している**新入生向け学校説明会等**にて、建て替えの影響を受ける学年に向けてご説明いたします。

また、Home&Schoolやコドモンへの配信、保育園などとも連携をしながら周知に努めていきます。

次回の主な議題について

2-5

- ・アンケートの実施について
- ・基本計画（素案）の説明

保護者や地域の思いや声を把握し、学校の改築を進める際の参考とさせていただくことを目的に、WEBアンケートを実施します。

＜実施概要＞

実施時期：令和7年7月上旬～中旬

実施対象：保護者、地域住民の方々

実施方法：WEBアンケート

周知方法：児童・生徒を通して家庭へ配付、近隣住民の方々へポスティング

配布資料：アンケート実施案内、基本計画（素案）抜粋版

＜アンケート内容（案）＞

Q1 千駄谷小・原宿外苑中の建て替えにあたり、大切であると思われる事項

Q2 その他、千駄谷小・原宿外苑中の建て替えに関してご意見

具体的なアンケート実施内容は、次回の建て替え準備委員会で説明します。

会 議 名		第四回渋谷区小中一貫教育校（千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替え準備委員会	
日 時		2025 年 5 月 21 日（木）13:30～14:40	
場 所		原宿外苑中学校 コンピューター室	
出席者	事務局（渋谷区）	区	教育委員会事務局次長 未来の学校担当課長 教育政策課 学校施設整備第一係、第二係 計 5 名
	事務局（事業者）	明豊	明豊ファシリティワークス株式会社 計 2 名（オンライン計 3 名）
	渋谷区小中一貫教育校 （千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替え準備委員会 委員		原宿外苑中学校 校長、副校長 千駄谷小学校 校長、副校長 計 15 名（欠席：8 名） 学校・地域関係者
資料		・第四回渋谷区小中一貫教育校（千駄谷小学校・原宿外苑中学校）建て替え準備委員会資料	

内 容（カッコ内は発言者） ※発言者は、出席者欄の略称により記載します。	
1. 開会 ・ 半数以上の委員に出席いただいているため、会を開会します。（区） ・ 今年度最初の建て替え準備委員会の開催のため、新しい委員の方の紹介を行いました。（区） ・ 委員長挨拶（原宿外苑中学校 校長） 昨年度から引き続き、ご意見を頂きながら良いものを作っていけるようにご協力いただきたいと思います。	
2. 議題 （１） 建て替え準備委員会スケジュールについて ・ スケジュールの説明を行いました。（区） ・ これまでの建て替え準備委員会の振り返りとして、各回議題の概要を説明しました。（区） （２） 第三回建て替え準備委員会の振り返り ・ 第三回建て替え準備委員会の振り返りとして、頂いた意見と検討時期の説明を行いました。（区） （３） 第四回議題 ＜建物配置について＞ （以下、明豊より説明） ・ 計画中の学校は、現状の原宿外苑中学校に対して約 2.7 倍、現状の千駄谷小学校と原宿外苑中学校の合計に対して約 1.5 倍を予定しています。 ・ 配置検討を行った建物規模は、延床面積約 16,900 m²、地上 6 階で想定しています。渋谷区の整備方針に沿った豊かな空間を確保するために、既存の学校より建物の必要面積は大きくなっています。 ・ 建物配置は、A 案：校舎北側、B 案：校舎西側、C 案：校舎南側、D 案：校舎東側について比較検討を行いました。C 案は校舎棟により校庭に日影が最も生じること、D 案は日影規制により建設不可であることから、A 案と B 案の検討を深度化しています。 ・ A 案と B 案について、体育エリアを独立させるか、一体とするかで校舎と校庭の配置を検討しています。B ②案：校舎西側体育エリア一体の場合、校庭は概ね整形で既存校庭より若干広く、トラックコースは既存同等に 150m を計画できます。一方で他の案は校庭が既存同等に確保できず、トラックコースを計画することも難しいです。以上より、B ②案をおすすめの配置案として提示しています。 ・ 各配置案について「児童・生徒」、「地域開放」、「車両動線」の検討を行っています。北側道路は西側に向かって上がっていますが、学校敷地と同レベルになる北側中央付近を正門とすることで考えています。車両動線は、既存と同様に西側を想定しています。 ・ 「小中学生が一緒に登下校をすることを考えると、北側の歩道が狭いのでは」というお話を事前にいただいています。対策として敷地内に児童・生徒が一時的に溜まれる空間を設けたり、敷地内の一部を歩道上空地とする方法などが考えら	

れたりするため、設計段階で検討をしていきます。（区）

<学校施設の機能ゾーニング>

- ・機能配置の考え方を説明しました。管理諸室を1階に配置し職員室から校庭が見えるようにし、2～3階に教室、4階に特別教室、5階に体育館、プールを配置する想定をしています。調理室は既存プールの部分に配置を想定しています。（明豊）
- ・機能ゾーニングは、設計者によって提案が変わってきます。機能ゾーニングは参考にご覧いただき、本日は建物配置について意見を伺いたいと考えています。（明豊）
- ・5階の体育館を避難所として使用する場合は、階段の他に、停電時でも非常用発電機によりエレベーターを利用可能とする想定です。（区）

（質疑応答）

- ・正門の位置について、現在の正門の位置は水没する場合があること、交差点の近くは危ない場合があること、更にバス停があることを配慮し検討していただきたいです。説明の中にもありましたが、歩道が狭いため、敷地に少し入ったところまで歩道にするなど、児童・生徒が危なくないようにしていただきたいです。（委員）
- ・避難所として体育館を使うとのことですが、防災備蓄倉庫も計画されるのでしょうか。（委員）
⇒ご認識の通り、防災備蓄倉庫についても計画します。（区）
- ・現在の校庭は、体育館側の近くが寒くなります。建設工事に伴い整地をすることで解決できるのでしょうか。（委員）
⇒現在の校庭で体育館側の近くが寒くなるのは、恐らく、体育館の影の影響だと思います。（委員）
⇒現在の校庭にも雨の貯留設備や排水機能があるようですが、老朽化や泥の蓄積により機能が弱まっているので水はけが悪くなっているのではないかとこの話を聞いたことがあります。（委員）
⇒水はけの良い人工芝や雨水貯留層を設ける予定なので、水はけは改善されると考えています。日影についても設計段階で考慮できると考えています。（区）
- ・体育館は5階設置で決定なのでしょう。故障等でエレベーターが動かない場合も考えられ、5階だと不便ではないでしょうか。別の場所も使えるという考えはあるのでしょうか。（委員）
⇒新しい学校は避難所機能を前提に整備するため、エレベーターも高い耐震性を有した設備とし、非常用発電により停電時にもエレベーターは稼働する計画です。全体の計画としては、小中一貫教育の連続性を支える教育環境を整備し、かつ、校庭を十分に確保するため、体育館を上層階に配置していますが、同時に、避難所としての機能についても十分に考慮しており、学習環境と地域施設との両立を図る施設計画としています。なお、体育館を上層階に配置している理由としては、校舎と体育館を一体の建物として計画するにあたり、体育館は柱のない大空間であるため、柱が必要になる1階には配置がしにくいと考えています。なお、1階にも避難できる場所を確保するよう計画していきます。（区）
⇒その場合は、色々な地域から避難された方を区分けするためにも、1階に受付が必要だと考えます。（委員）
- ・北側の道の勾配に対して、敷地全体を上げることは出来ないのでしょうか。上げることができれば水没の懸念もなくなるのではないのでしょうか。（委員）
⇒地盤レベルや道路との擦りつけの詳細は設計段階で詳細に検討していきます。（区）
- ・校庭の土の入れ替えをして、水はけを良くするという説明が以前ありましたが、行うのでしょうか。（委員）
⇒人工芝を敷く前に地盤改良を行うことで水はけを良くしたり、雨水貯留槽を設置したりする予定です。（区）
- ・避難所のトイレはどのような計画となるのでしょうか。（委員）
⇒現在はマンホールトイレですが、衛生面や防犯面で課題もあると認識しているため、学校内のトイレを非常時にも使えるように計画する予定です。（区）
- ・配置案の比較表で見合いになるというのは、どことの見合いのことを言っているのでしょうか。（委員）
⇒西側のマンションとの見合いが一番近いと考えています。（区）
⇒距離があり、そこまで影響がないとは思いますが、配慮は必要だと思います。（委員）
- ・地盤レベルを変えると容積を稼げるのでしょうか。（委員）
⇒現時点の計画で容積率には余裕がありますが、日影規制と高度地区の規制により建築可能高さが決まっています。

30m の高さ制限に対し、現在は 28m 程度の計画で更に 1 層増やすことは難しいです。（明豊）

- ・ 様々なご意見をいただきましたが、今後計画を進める配置案は B②案校舎西側・体育エリア一体案でいかがでしょうか。（区）
⇒一同了承。水はけや避難所等の課題は引き続き検討してください。（委員）

（４） ハード面以外の検討について

（以下、区より説明）

< 検討スケジュールについて >

- ・ 渋谷区小中一貫教育校の整備について、検討スケジュールを中心に説明を行いました。
- ・ 現在検討中の基本計画は、今年度中に完成予定です。また、原宿外苑中学校敷地の既存校舎の解体および建設開始時期については、先行している広尾中・松濤中の工事期間が当初予定を超えて 3 年以上となる状況のため、ロードマップから 1 年遅れて令和 11 年度の予定です。
- ・ 校名、校章、校歌については、渋谷本町学園設立時と同様の手順を踏むことが想定され、完成の 2 年前頃から検討を開始する予定です。
- ・ 学校選択制については、神宮前小や鳩森小、代々木山谷小の一部の児童が小学校入学時から一貫校を選べるようにしてほしいという意見を踏まえ、検討中です。開校年度に 6 年生となる学年は、現時点では令和 9 年に入学する子供であり、選択制については、令和 8 年度の夏以降の周知を予定しています。
- ・ 現在の検討スケジュールは、昨今の施工者の人材不足や建築業界の働き方改革による労務時間の縮減により、工期延伸となるケースが全国的に生じている影響を鑑みながら、検討時期や周知の時期は見直す予定です。
- ・ 学校の特色については、区としての教育政策の方向性を踏まえつつ、地域特性等を考慮し、その時々の方針に合わせ検討していきます。

< 千駄谷小学校跡地について >

（以下、区より説明）

- ・ 千駄谷小学校跡地は、周辺校建て替えのための代替校舎として利用します。また、代替校舎としての利用が終了した後は、「渋谷区『新しい学校づくり』整備方針」に記載のとおり、第 2 グラウンドとしての活用を想定していますが、今後の地域のニーズ等を踏まえ検討します。具体的な検討は、代替校舎としての利用が終了する数年前からになるものと考えています。

< 今後の情報共有について >

（以下、区より説明）

- ・ 建物に関する説明会は、令和 7 年末に、基本計画説明会を実施予定です。その他、実施設計時には近隣住民等に向けた「渋谷区中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例」に基づく説明会を実施予定です。
- ・ 新入生や保護者への説明会は、各校で毎年開催している新入生向け学校説明会等にて、建て替えの影響を受ける学年に向けて説明予定です。また、Home&School やコドモンへの配信、保育園などとも連携をし、周知に努めます。
- ・ 建て替え準備委員会の資料と議事要旨について、現在は、ニュースレターで建て替えに関する情報を公開していますが、今回の第四回建て替え準備委員会から、ニュースレターに代えて、会議資料と議事要旨を公開する方向で考えています。

（質疑応答）

- ・ 千駄谷幼稚園は今後どうなるのでしょうか。（委員）
⇒千駄谷小学校は建て替え後も近隣小学校の代替校舎として使うため、校舎がある期間は幼稚園も使えます。一方で園児の数が減っているため、別の視点での検討も必要だと考えています。（区）
⇒計画中の学校に千駄谷幼稚園が入ることはないですか。（委員）
⇒予定していません。（区）
- ・ 説明会を行うとのことですが、どの範囲までお知らせをするのですか。（委員）

⇒紙でお知らせするのは建物の高さの概ね 2 倍の距離までと考えていますが、基本計画説明会のため、地域や保護者の方々にも参加していただけるよう、データでの配信・周知はより広い範囲で行う予定です。（区）

- ・ 紛争の予防と調整に関する条例に基づく説明会は、周知日数が短いと言われることが多いため、はやめに周知するなど弾力的な説明会実施が必要ではないでしょうか。（委員）
- ・ 人口が減少に転じる時期が遅くはなっているが、いずれは減少していきます。ロードマップは見直すのでしょうか。（委員）
⇒ロードマップの見直しは今後行っていきます。渋谷区だけでなく、公共工事全体で工事費高騰や工期が延びている状況です。（区）
- ・ 非常に厳しい建設市況であることは認識しています。この計画が止まることはないのでしょうか。（委員）
⇒渋谷区では、学校の建て替えの計画を止めることなく進めていきます。（区）

（５） 次回の主な議題について

- ・ 今年の 7 月上旬から中旬の間で、保護者の方や地域の声を把握し、学校の改築を進める際の参考とすることを目的に、WEB アンケートを実施予定です。具体的なアンケート実施内容は、次回の建て替え準備委員会で説明予定です。（区）
- ・ 基本計画の作成に際して、まず基本計画の素案を作成します。具体的な内容は、次回の建て替え準備委員会で説明予定です。（区）
- ・

4. 閉会

- ・ 第五回建て替え準備委員会は 6 月下旬頃から 7 月上旬に実施予定です。実施日時は、決定次第通知します。（区）